

着 mono 通信

yoroduya

2021・2 vol.29



原町本店
〒975-0026
南相馬市原町区栄町2-83
TEL:0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL:0246-85-5298

みなさまこんにちは！毎日寒い日が続きますね。浜通りは雪はあまり降らないのですが、この時期の乾燥した冷たい風が本当に体にこたえます。暦の上ではまもなく春です！2月3日の立春は二十四節気において春の始まりとされる日です。立春はこの36年間ずっと2月4日だったのですが、2021年は2月3日となりました。現代の日本では、国立天文台の観測によって、「太陽黄経が315度になった瞬間が属する日」を立春としているそうです。

2021年の立春の瞬間は、2月3日23時59分。あと1分で2月4日になるところだったのですね。2月3日の立春は37年ぶりということで、今年はなんだか特別な年のような気がしませんか？待ち遠しい春のスタートですが、やはり「春は名のみ」ですね。まだまだ寒い日が続くと思いますので、みなさまもどうかお体ご自愛ください。

ここでお知らせがあります。当初2月3日～2月6日までいわき店で予定していた「草履お誂え会」ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言を受けまして、東京・浅草からの職人来場が困難となりました。草履お誂え会は、次回7月に予定しておりますので、ご期待ください。今回の「早春ささらぎ着物フェア」は問屋協賛により、商品のみ揃えて皆様のご来店をお待ちしております！

<着付体験 & 撮影会のイベントに参加しました>

よるづや
トピック

昨年(2020)の12月22日(火)に野馬追通り銘醸館において、「舞妓・打掛・振袖の着付け体験と撮影会」(主催:相双地域に着物文化をよみがえらせる会/代表 折笠小百合)が開催され、着付師として参加しました。



前方と後方に分かれてそれぞれの役割で着付を進めていきます。



言葉を交わさず、お互いの間合いや手の動きを察しながら着付します。まさに、あうんの呼吸が必要です。



会場には、年代物の着物や帯の展示もあり、最近では見かけない色合いや柄の着物を見ることができました。

大正や昭和初期の着物や帯は、現代になっても色あせることなく素敵なものばかりでした。



振袖では帯結びが主体の後方を、花嫁では前方を担当しました。裾合わせに苦労しました。



舞妓の着付けはベテランの着付師の先生お二人が担当しました。紐の捌き方や、所作の綺麗さが素晴らしくてため息が出るほどでした。舞妓の帯結びはだらりの帯といって結び方やバランスのとおりが大変難しいので、見ているだけで勉強になりました。着付け体験に協力してくれた方も、なかなか着る機会がない舞妓の衣装にとっても喜んでいらっしゃいました。みなさんの美しい姿に、写真撮影のカメラマンもテンションが上がってましたね(笑)

コロナ禍で大変な時でしたが、見に来てくれたお客様にも大変喜んでいただけて、このようなイベントを主催して下さった「相双地域に着物文化をよみがえらせる会」の代表であります折笠小百合先生に感謝申し上げます。

大変良い機会を与えていただけて、とても勉強になりました。猛特訓の成果が出せたことと信じております♪

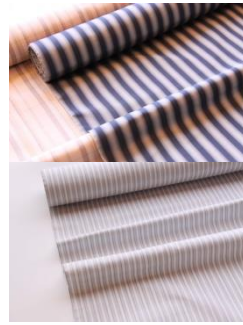
くよろづ屋 きものがたり～大島紬～

全国の紬の産地のお話や、きものにまつわるあれこれをご紹介します新コーナー
第2回目は、紬といえばみんなのあこがれ大島紬

大島紬はシワにも雨にも強いので出張のお供です！



着物好きで知らない人はいないというくらい知名度がある大島紬は、奄美大島(鹿児島県)を本場生産地(発祥の地)とする絹織物で着物の女王と言われていています。絹100%、織る前に糸を染める先染めを行い、手織りの平織りで、緋合わせをして織上げたものは「本場大島紬」の名で伝統工芸品に指定されています。深い黒に加え、緻密な染めと織りの技術で知られる、日本が誇る絹織物の最高峰のひとつです。優雅な光沢を持ち、しなやかで軽く、シワになりにくいという特徴があります。手紡ぎの糸を、「テーチ木(シャリンバイ)」という奄美エリアに生息する植物の煎汁液と、鉄分を含む泥土でこげ茶色に発色させ、手織りする伝統的技法がとられています。大島紬と言えば渋い茶褐色の泥大島が代表的ですが、白大島や色大島、縞大島、染め大島など多数あります。



本場縞大島紬は通称「縞大島」とも呼ばれており、緋糸を機械織で織られるもので、大島と同じ絹糸を用いて織られているため、滑らかな手触りと光沢が特徴的です。さまざまな単色の地糸を用いることにより、グラデーションや多色づかいの縞柄は、オシャレでモダンなデザインとなっています。

本場縞大島紬 120,000円(税別)

縞柄の白大島紬は、地糸を染めずに織り上げた白をベースの明るい色調になっています。カラフルな色使いの縞柄がさわやかな印象を与えてくれます。

白大島紬 298,000円(税別)



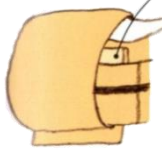
教えて！着付けのコツ

～お太鼓がくずれた！～
「お太鼓の返しを引っ張りましょう」

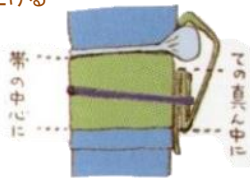
お太鼓がくずれる原因のひとつに、帯締めめの締め方が緩いことが考えられます。帯締めめは、後ろは「て」の中心、前は帯の中心を通るようにして脇で一度ギュッと締めます。お太鼓を何かにぶつけてくずれてしまったら、鏡で確認してお太鼓の下線を押さえながら、お太鼓の左右の返しの部分を交互に引っ張って調節します。

ふくらんだとき

お太鼓の返しのお太鼓側を引き上げる

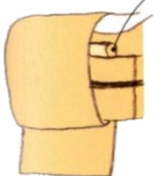


お太鼓側の返しを左右交互に少しずつ上に引き上げると、お太鼓のふくらみが徐々に小さくなります。鏡をよく見て、形を整えましょう。



たれが長いとき

お太鼓の返しの体に近いほうを引き上げる



体に近いほうの返しを上引っ張ると、たれが徐々に短くなります。鏡を見ながら、たれがちょうどよい長さになるまで、左右交互に引き上げます。たれが短い場合は両手でたれを引き下げます。

参考文献: 着物の辞典 大久保信子監修

今月のおすすめ！

足袋インナー
ヒート+ふいと ロング
880円(税込)



今回おすすめの商品は当店が定番で扱っている足袋インナー「ヒート+ふいと」のロングバージョンです。定番の足袋インナーはくるぶしまでの長さでしたが、今回入荷したロングタイプはひざ下まで温めてくれる優れものです。和装ストッキングや和装タイツとの兼用もOKですので、重ねて履けば足元の寒さ対策もバッチリです。東レが開発した発熱・保温効果のあるソフトタッチの新素材ソフトサーモ(R)を使用した足袋インナーは、京都の寒い冬を優雅に歩く舞妓さん達の声から生まれました。ロングタイプはひざ下までのハイソックス型になっていて、伸縮性に優れたストレッチ素材で程よいフィット感があり、ヒザ下からつま先まであったかく包んでくれます。また、裾からのぞいても目立ちにくい肌色になっている親切設計です。

寒さ厳しいこの季節、手足の冷たさはこたえますよね。重ね履きで普段の足袋がきつく感じる場合は、ワンサイズ上の足袋を履かれることをお勧めします。ストレッチ足袋も伸縮性があるので、足袋インナーとの相性はいいですね。詳しくは店頭でご覧ください。

…若女将のつぶやき…

南相馬市では、成人式が5月2日に延期になりました。次女が今年新成人だったので何だかびっくりしてしまいましたが、現状を考えると仕方ないですね。とりあえず写真だけでもと張り切って支度してあげました。娘に自分で着付けてあげたい思いから、振袖の着付けと帯結びを練習した甲斐があって二人とも(長女も着たいというので着せました)綺麗な振袖姿に…次女は総絞りの振袖がたいそう気に入っておりまして「結婚しないで50歳まで着る！」と何とも親泣かせの一言を浴びせてくれました。嫁には行ってほしいのに(´・ω・`)

